

あなたのみことばは真理です

2014年11月2日、近江八幡、福音集会
ゴットホルド・ベック

ヨハネ

17:1 イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現わすために、子の栄光を現わしてください。

17:2 それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。

17:3 その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。

17:4 あなたがわたしに行なわせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現わしました。

17:5 今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。

17:6 わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。

17:7 いま彼らは、あなたがわたしに下さったものはみな、あなたから出ていることを知っています。

17:8 それは、あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。

17:9 わたしは彼らのためにお願いします。世のためではなく、あなたがわたしに下さった者たちのためです。なぜなら彼らはあなたのものだからです。

17:10 わたしのもはみなあなたのもの、あなたのもはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。

17:11 わたしはもう世にいません。彼らは世におりますが、わたしはあなたのみもとにまいります。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らが一つとなるためです。

17:12 わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。

17:13 わたしは今みもとにまいります。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあつてこれ

らのことを話しているのです。

17:14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。

17:15 彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。

17:16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。

17:17 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。

このヨハネ伝 17 章はすばらしい祈りです。毎日読んでもいいじゃないかと思います。結局「あなたのみことばは真理です」。これはイエス様の確信であり、喜びの源でした。

私の悩みの一つは何でしょうかね。悩んでいない人はいない。信仰があってもなくても人間は悩む者です。私の悩みの一つは、イエス様にとって、からだなる教会はいかに大切なものであるかと分かっていない人は多いということです。

イエス様の教会とは仲良し会ではない。イエス様は、「わたしはわたしの教会を建てる」と約束してくださいました。どうせ人間はできないからです。けれどもイエス様はその約束を必ず守って下さいます。だからこそ、すべてをめちゃくちゃにする悪魔は、信ずる者がこのからだなる教会の大切さを知らないように昼夜攻撃し、めくらにしようと思っています。そして、ある程度まで成功したように見えますけれども、この勝利はもちろん本物ではない。偽物です。イエス様はご自分の教会を、自分のからだなる教会を建てる。このからだなる教会とは言うまでもなく、かしらはイエス様です。主のからだなる教会はイエス様にとってすべてです。

コリント第一の手紙の中で次のような大切な箇所が書かれています。

コリント第一の手紙

12:27 あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。

そうならもらいたいのではなく、そうなんです。事実が述べられています。上からの光に照らされて、すなわち、上からの啓示によって、この真理を心の目で見ていることのできる人は幸いです。それによって、すべての疑問、また疑いが飛んで行ってしまいます。今も歌いましたように、「いつまでも、いつまでも、主と生きる」喜び。何があっても、もうちょっと、イエス様は近いうちに来られます。いろいろな問題がある。どうしたらいいかわかりません。けれども、確実なのはイエス様は近いうちに来る。それによって問題はいつぱんに解決されます。

人間の祈りはたいせつです。もっとたいせつなのはイエス様の祈りでしょうね。イエス様は祈りの中で、今の読んでもらいました箇所を読むとわかります。

ヨハネ

17:17 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。

聖書を学ぶ場合に一番たいせつなことは、次のようなことではないでしょうか。すなわち、聖書自身が自らを明らかにするということです。したがって、みことばを学ぼうとする時には、聖書全体が何を言っているかを正しく理解しなければなりません。たとえば新約聖書の中の福音書、あるいは手紙を学ぼうとする時には、絶えず新約聖書と旧約聖書の関係の中でそのところを読まなければなりません。それですから、聖書の中の一部分を読む場合などには、それが聖書全体の中でどのように位置づけられているかに注意し、そのところだけでなく、ある場合には前の方に遡り、ある場合には後の方を見なければなりません。

また、みことばを読む目的はたいせつです。単なる知識を得るためではなく、心から真剣に真理を求めて行くという飢え渇きを持つことがたいせつです。聖書は神のみことばですから、私たちはみことばを主なる神のみことばとして学び、主のみことばとして素直に受け入れることがたいせつです。

私は聖書を読んでいる人の絵を四枚持っています。一枚目の絵を見ると、大きな人が小ぢやかな聖書を読んでいます。二枚目の絵になると、その大きな人は前よりも少し小ぢくなり、その代わりに聖書は前よりも少し大きくなりました。三枚目の絵を見ると、その人は前よりもさらに小さくなり、聖書はその人と同じくらいに大きくなっているのです。そして四枚目の絵を見ると、その人は非常に小さくなり、それとは反対に聖書は比較にならない程、大きなものとなりました。

これからわかることは、始めは自分の考えによって聖書を解釈していた人は、聖書を読むうちに聖書が絶対的な権威を持つに至ったということです。つまりその人は聖書を主なる神のみことばとして真剣に読み、このみことばに耳を傾け注意してきましたからみことばがその人の血となり、肉となり、自分の思いが消えて行ってしまったのです。その結果、みことばがすべてとなり、主イエス様がますます大きくなったということです。

今日、多くの人はみこころを軽く考えて、自分の考えで勝手に解釈したり、みことばに対して耳を傾けることをしなくなってしまいました。けれども、正しくみことばを学ぶ時、聖書のみことばこそ絶対的な権威を持たなければなりません。聖書というものは決して研究のためのものではない、それ

をとおして主なる神ご自身がわれわれに語りかけてくださるみことばです。ですから私たちは注意深く聞かなければなりません。

主のみことばを聞き、それに従う者はロマ書 10 章の 17 節のみことばを体験できます。

ロマ書

10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

聖書に書かれていることがらを絶対的な権威を持った神のみことばとして受け入れ、それに耳を傾けない者は、決して生き生きとした信仰を持ち得ないのです。聖書は確かに世界のいわゆるベストセラーですけれども、聖書を読むことによって、教養を身につけ、足りないところを補っていかうとするのでしょうか。それとも、別にはっきりとした目標を持たずに、気の向くままにあっちを読んだりこっちを読んだりすれば良いのでしょうか。決してそうではありません。みことばを読む場合、ほんとうの目的はイエス様を体験的に知り、イエス様に出会い、そしてイエス様を受け入れること、また主イエス様をより良く知ることであるべきです。

イエス様は言いました、告白として。わたしはいのちのパンです。それだけじゃなくて、わたしを食べる者は永遠に生きる、と言われたのです。ヨハネ伝 6 章 51 節、54 節です。

パンは見て驚くために博物館の中に飾られているものではありませんし、またそうしても良いものではありません。食べなければ何の価値もないものです。イエス様を信ずる兄弟姉妹の霊的ないのちは、このいのちのパンを食べる量りにしたがって、程度にしたがって成長して参ります。いのちのパンであるイエス様ご自身がわれわれの食べ物とならなければいけませんし、またイエス様ご自身はそうなりたいと思っておられ、願っておられます。

エレミヤという男は悩んだ男でした。誤解されてしまったし、刑務所に入ってしまったこともあるし、けれども彼は悩みなながら元気になった。どうして？エレミヤ記 15 章 16 節を見ると次のように書かれています。ほんとうに素晴らしい証です。

エレミヤ

15:16 私はあなたのみことばを見つけ出し、それを食べました。あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。

エレミヤは何と言いたかったか、と言いますと、「喜ぼうと思えばみことばを食べなさい」みことばは人間にとって最大の宝物です。ダビデもみことばのたいせつさ、すばらしさが分かったから、一番長い詩篇ですけれども、119 篇(を書

きました)。全部読みません。心配しないで。詩篇 119 篇の 105 節だけ。皆さん、暗記している言葉ですけれど。

詩篇

119:105 あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。

119:162 私は、大きな獲物を見つけた者のように、あなたのみことばを喜びます。

私たちが何かを表現しようとするなら、ことばをもってしなければいけない。もし私が何も話さないでいるなら、皆さんは私の心の奥底を知ることができないでしょう。いったいどうしたらイエス様をもっと知ることができ、理解することができるのでしょうか。みことばによってです。

聖書は主なる神のことばです。みことばは主ご自身の啓示そのものです。すなわち、単なる教理、単なる学説ではなく、主のあらわれ、主の啓示そのものです。だから、聖書を読むことはたいせつですが、聖書を研究し、また、いわゆるキリスト教の教えを知るためではなくて、聖書を読むことにより、イエス様を知ること、より親しい交わりを得るために読むべきです。

誤った聖書の読み方もあるでしょう。ある人は、聖書の中の主の愛について書かれたところだけを好きで、いつもその箇所だけを見ます。そして、主の愛だけを口にします。また少し謙遜な人は、主なる神は柔和であるとの箇所を好んで読み、主の柔和だけを云々します。これに対し、少し激しい気質の人は、主の裁きだけを口にようになります。これは皆自分の考えを入れた聖書を読む結果です。

それは、あたかもいろいろな色のセロファン紙を聖書の上に置いて読むようなものです。そのようなことをすれば、聖書がいろいろな色に見えるのは当たり前なことです。その色のセロファン紙を取り除き、すべての考えを除くなら、イエス様はご自分を啓示なさることができます。また理解力を持って聖書を理解しようと思えば、もちろんうまく行きません。パリサイ人たちは、よく聖書を読んだ学者たちは、結局その読み方をしました。イエス様は彼らに厳しく言われました。

ヨハネ

5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。

5:40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。

聖書の単なる教理が問題ではありません。イエス様ご自身が問題です。なぜなら、イエス様は聖書がわたしについ

て証言していると言われたがゆえに、たいせつです。わたしのことばは永遠に残るとイエス様は約束してくださいました。聖書を読むことといのちを得ることは一つのことからであり、決して二つのものではありません。旧約聖書の申命記になりますけれども、次のように書かれています。

申命記

32:47 これは、あなたがたにとって、むなしいことばではなく、あなたがたのいのちであるからだ。

内容としてパウロの愛弟子テモテにも同じことを書いたのです。

テモテ第二の手紙

3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です

聖書全体は主なる神の息が吹き込まれることによって書かれたものです。主なる神の感動により、主の息吹により、靈感によって書かれた書物です。だから聖書は主なる神の教えではなくして、主なる神の啓示と言わなければなりません。主のみことばをもって自身をお現わしになりました。主のみことばはわれわれにとっていのちのパンとならなければなりません。なぜなら、聖書は教理や真理の原則を語っているのではなく、いのちのパンそのものであるからです。イエス様は言われました。

マタイ伝

4:4 人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。

イエス様はご自身、わたしがそれによって生きる、自分がいのちのパンとなりたく思っておられる。私たちはイエス様によって生きているのでしょうか。私たちは主のみことばによって生きているのでしょうか。ヨハネ伝 6 章 63 節を見ると、イエス様はまた次のように言われました。

ヨハネ

6:63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。

主のことばは主ご自身を啓示するのです。みことばを食べることはいのちを得ることを意味します。生けるみことばがわれわれのうちに入るなら、その必然的な結果としていのちがやって来ます。理解力をもってしては決していのちは訪れて参りません。もし、聖書が私たちにとって単なる掟であり、単なる真理であるならば、それはわれわれにとって重荷であり、不自由なものです。けれども、いのちならば自由と喜びをもたらすのです。

もう一回言いましょうか。聖書は学問のために書かれたものではない、新しい真理を打ち立てるために書かれたものでもありません。聖書は主の呼吸、すなわち主なる神の息です。すなわち主なる神は、ご自身をこのみことばによって、みことばで包んで、みことばにご自身をふくんで、あらわされているのですから、私たちはそのみことばを、イエス様を、いのちのパンとして受け入れ、食べなければなりません。古い聖書の読み方を捨てなければなりません。何かある先入観をもって聖書に接することをやめ、イエス様ご自身を、すなわちいのちのパンを食べるように、心がけなければいけない。

食べるなら味がするはずですよ。何年か前に、私たちはとってもすばらしい支那料理を食べたことがあります。今まで食べたことのない料理が次から次へとたくさん出てきましたが、私はどんな味がするのかと隣の人に聞くようにしませんでした。すぐそれをちょうだいしました。あれやこれを理解したり、他の人に訊ねてみたり、聖書の註解書を見たりする必要はない。ただ、いのちのパンを食べ、満腹することはたいせつです。

心の目がいったん開かれるなら、真理を理解することなど問題ではなくなります。ただ、自分が主のみこころに叶っているかどうか、また、いかにしてみことばによって満腹するかどうかだけが問題になります。満腹させないものは役に立たない。そのようなものはすべて(捨て)、満腹させるいのちのパンとイエス様ご自身を食べましょう。食べたなら消化して、その結果、力があたえられるのです。食べるなら、それは体の一部分となり、そうすることによって、栄光から栄光へと主と同じ姿に変えられて参ります。

一日の静慮の時をこのいのちのことばを食べるために用いましょうか。

前に誰が書いたのかわからないけれど、「ある聖書の日記」と言う本題なのです。聖書は話します。

1月15日、静かな一週間を過ごした。新年の数日間晩、私の持ち主は私を規則正しく読んだ。しかし、今は私を忘れてるらしい。

2月2日、今日整頓されて、ほかのものと一緒にほこりを払われた。そして元の場所に戻された。

2月8日、持ち主が朝飯を終わってから少しの間用いられた。持ち主は二三カ所読んだ。持ち主と一緒に教会へ行った。

3月7日、整頓され、ほこり払われ、もとの場所へ置かれた。教会に行ってから玄関に置きっ放しになっていたから、

4月2日、今日、私は忙しかった。持ち主は司会をやったので、私を読まなければならなかったのである。ちゃんとその場所になるのに、その聖句を長い間持ち主は

見つけることができなかった。

5月5日、午後一杯、おばあちゃんのひざの上にあった。おばあちゃんは僕を訪ねたのだ。コロサイ書2章5節から7節を読んでおばあちゃんは涙を流した。

5月9日、今、毎日午後おばあちゃんのひざの上にいる。私はそこを居心地の良く感ずる。おばあちゃんはしばしば読み、私に語りかける。

5月10日、おばあちゃんは出かけた。私はもとの場所に戻された。お別れの時に接吻してもらった。

6月3日今日誰かが私の頁の間にクローバーの葉を二三枚挿んだ。

7月1日、着物や他のものと一緒にトランクに詰められた。休みにどこかへ出かけるらしい。

7月7日、まだトランクの中にいる。

7月10日、ほかのものはほとんど皆取り出されたのに、私はまだトランクの中にいる。

7月14日、再び家に帰ってもとの場所にいる。かなり長い旅行だった。しかし私は読まれなかったなのに、なぜ一緒に行かなければならなかったのか、理解に苦しむ。

8月1日、ひどく息苦しく暑い。二冊の雑誌と小説が一冊、それに古い帽子が私の上に乗っかっている。取り除かれれば、うれしいのだがな

9月5日、整頓され、ほこりを払われキッチンと納めた。

9月10日、今日、花子が私を少しの間使った。花子はお兄さんを亡くした友だちに手紙を書いた。それで適当な聖句を用いたのだ。

9月30日、またほこりが払われた。

霊的いのちにも食べ物が必要です。この霊的な食べ物を私たちはいったいどこで見つけるのでしょうか。聖書、すなわち主なる神のみことばの中に見つけるのです。聖書はイエス様の啓示そのものであります。そして、イエス様こそがわれわれの渴ける魂にとっていのちの糧です。みことばを読んで深く考えて心にとどめましょう。イエス様を知る者として経験する難しい問題の99パーセントは聖書を読まないからです。聖書を読まない怠慢と言う罪を主に告白しましょう。

もし私たちが飢え渴きをもって聖書に接しなければ、またみことばを深く味わわなければ、霊的に一歩も前進しないからと言って不思議ではありません。みことばを読まない罪を言い表わすなら、主はわれわれにみことばに対する飢え渴きを新しく与えてくださり、また主が新しい御声をもって語りかけてくださるのです。申命記の17章の19節を見ると、次のように書かれています。

申命記

17:19 自分の手もとに置き、一生の間、これを読まなければならぬ。それは、彼の神、主を恐れ、このみおし

えのすべてのことばとこれらのおきてとを守り行なうことを学ぶためである。

もう少し後になります。

ヨシュア

1:8 この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行なうためである。

最後にもう一カ所読みます。今度は詩篇の 119 篇です。全部じゃないよ、72 節。

詩篇

119:72 あなたの御口のおしえは、私にとって幾千の金銀にまさるものです。

119:97 どんなにか私は、あなたのみおしえを愛していることでしょう。これが一日中、私の思いとなっています。

119:140 あなたのみことばは、よく練られていて、あなたのしもべは、それを愛しています。

われわれもダビデのような態度を取ることができれば祝福されます。

おわり